

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 17 日

【評価実施概要】

事業所番号	3670100035
法人名	社会福祉法人 さわらび会
事業所名	グループホーム野バラ
所在地	徳島県徳島市名東町2丁目456番地 (電 話) 088-633-6567

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 11 月 17 日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤:7人、常勤換算:7人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋鉄骨造り
	4 階建ての 1 階 部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有の場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 200 円 夕食 300 円 または1日当たり	昼食 300 円 おやつ 200 円	
		1,000 円	

(4)利用者の概要 (平成 20 年 10 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低 79 歳	最高 98 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	川内内科、小倉歯科診療所
---------	--------------

徳島県 グループホーム野バラ

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は鮎喰川に沿った住宅街の中にあり、田園と緑に囲まれた自然豊かな場所である。事業所横の菜園で利用者と職員が一緒に収穫した新鮮な野菜が食卓に上がることがある。日中は玄関に鍵をかけていないことによる開放感によって、利用者はゆったりと落ち着いた生活を送っている。職員は利用者との馴染みの関係づくりがしっかりとできており、一人ひとりの個性や心身の状況に合わせた支援を行っている。職員同士のチームワークもよく、母体病院との連携も十分に図られ、安心した生活に繋がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善項目である「運営推進会議を活かした取り組み」については、会議を活かした取り組みは十分にできているが、開催は前回同様3か月毎である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で自己評価を行いケアサービスについて再確認している。課題等があれば直ぐに改善にむけて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3か月に1回開催されている。メンバーは利用者・家族・民生委員・地域包括支援センター職員・管理者・職員で構成されており、行事予定、活動報告、自己評価・外部評価の説明また、利用料改定についての意見交換等が行われている。会議録はファイルされ、職員全員に周知している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月「野バラ便り」を発行し、利用者の健康状態や暮らしぶりを伝えている。また3か月ごとに手紙や写真で詳しく報告し、金銭出納については毎月報告している。また、機会あるごとに家族の意見や要望を聞き、運営推進会議での意見等も運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 老人会への参加や近所の商店での買い物など、日常的に地域との交流を図っている。地域からは阿波踊りの来訪があるなど、双方向的な関わりをもっている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『地域の人とふれ合い、その人らしく安らぎと喜びのある穏やかな生活を送る』を理念としている。利用者の手により大きく読みやすく清書され、リビングに掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や日々の話し合いの中で、常に理念を意識し実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会への参加や近所の商店での買い物など、日常的に地域との交流を図っている。地域からは阿波踊りの来訪があるなど、双方向的な関わりをもっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で取り組み、見落としていた事などを評価のきっかけにして改善をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは利用者・家族・民生委員・地域包括支援センター職員・管理者・職員で構成されており、行事予定、活動報告、自己評価・外部評価の説明また、利用料改定についての意見交換等が行われている。会議録はファイルされ、職員全員に周知している。しかし開催頻度は3か月に1回であり、2か月に1回となっていない。	○	運営推進会議は2か月に1回、開催されたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員とは常に連絡や相談(利用料改定等)をして連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「野バラ便り」を発行し、行事や暮らしぶりを伝え、詳しい内容については手紙や写真で報告している。金銭の出納については3か月毎に報告し、家族に確認のサインをしてもらい、職員の異動があるときには報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会あるごとに意見などを聞き、相談にのっている。また、来訪した家族同士や職員間で話が弾み改善すべき課題が見えてくることもあり運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に抑え、新任職員が慣れるまでは全員が協力し、利用者への影響を少なくするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回職員研修会を実施し、職員が交代で講師となっている。法人外ではグループホーム協会や県主催の研修を積極的に受講している。資格取得のための勉強会への参加については勤務時間等も配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の見学を年間計画に取り入れて実施している。また職員同士の勉強会や利用者の相互訪問などの機会も設けている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には見学に来てもらって一緒に過ごし、居室やお風呂等を見てもらって雰囲気を感じてもらおうなどし、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	菜園での作業の方法や収穫した野菜の調理法など、また、礼儀作法等を教えてもらう中で、お互いを思いやる信頼関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を優先したケアを心がけ、一人ひとりの話しをよく聴くことに努め、職員全員で話し合っ てよりよい方法を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望にそったケアの提供に向けて全職員が話し合い、計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回介護計画の実施状況を評価し、家族にも見 てもらっている。計画の見直しは期間に応じて行い、状態が 変化した時には必要な関係者と話し合い、新たな介護計画を 立てている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、要望に応じて通院支援などを行っている。またショートステイの利用が可能な体制となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が家族に確認し、希望するかかりつけ医で継続した支援を受けられるよう配慮している。また定期的な医師の訪問診療もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合のマニュアルがあり、指針を定め、家族への説明を行っている。また方針は関係者間で共有できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等は全職員が注意して取り扱っており、個人情報保護に関する勉強も行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に決まった日課は無く、その日の状態にあわせて「したいこと」ができるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が調理や後片付けを一緒に行うなど、いきいきとした食事風景が見られる。また菜園で収穫した白菜などが食卓に上がっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好きな時間に入浴できるよう支援し、好みの湯加減や習慣を大切にしている。男性職員に抵抗がある場合には女性職員に交代するなど、利用者一人ひとりに合わせた配慮を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や古くからの行事の準備など職員にはできないことを教えてもらい、一緒に行っている。また、裁縫、畑仕事、書道、詩吟、家事など、それぞれに生活歴を活かした取り組みが行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望にあわせて、買物、散歩、ドライブ、外食、お墓参りなど戸外に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と共に避難訓練を行っている。内、1回は消防署職員による初期消火、避難誘導等指導をうけている。また防災マニュアルも整備し、地域住民の方々と交えた防災会議も開催している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分摂取量を記録し、把握できている。献立は併設施設の管理栄養士の助言を得て、栄養バランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には季節の花、壁には利用者の書や絵を飾っている。台所からの楽しそうな笑い声の中、畳のコーナーで洗濯物をたたむ方々も見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や家族の写真を置き、利用者の希望により畳を敷いている部屋もある。それぞれの部屋は整頓されており清潔感がある。		